

■7月25日

新日本航空、佐渡-新潟線、運航再開8月以降へ延期

7月末までの予定で長期運休している佐渡—新潟空路の運航再開が8月以降にずれ込むことが23日、分かった。運休の原因となった部品の修理は終わったが、国の検査日が決まらないため。運航する新日本航空は「再開時期は未定」としている。

同空路2月末の自主整備で部品に不具合が見つかり運休したが、その後も部品の調達や英国での修理がうまくいかず、運休が長引いていた。同社によると、先週、修理を終えた部品が英国から届き、機体への取り付けも終わったという。

(新潟日報)7/24

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130724056537.html> (-> <http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130724056537.html>)

ジンエアー(LCC)、長崎—仁川線へ就航、週3便で

ジンエアーは24日、仁川国際空港で仁川—長崎線の就航式を行い、運航をスタートした。使用機材はボーイング737-800型(183席)、週3往復で運航を行う。

Yonhapnewsによると、就航に際し、同社の馬元(マ・ウォン)代表取締役は「韓国LCCでは初めて長崎への定期便を就航し、単独路線八つを保有することになった。下半期にも単独路線開発に力を入れる」とコメントを行った。

(yonhapnews)7/24

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/07/24/0200000000AJP20130724001300882.HTML> (-> <http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/07/24/0200000000AJP20130724001300882.HTML>)

全日空、成田—ヤンゴン線をDaily運航・機材大型化へ

全日空は24日、9月30日より、現在週3便で運航している成田—ヤンゴン線を増便し、デイリー運航(週7便)をすと発表した。また使用機材も全席ビジネスクラスのボーイング737-700から、ボーイング767-300ER(202席:ビジネス35席・エコノミー167席)へ大型化を行う。

成田—成都線に関しても、10月1日から、使用機材をボーイング737-700(120席)からボーイング767-300ER(214席)へ大型化をすることも併せて発表した。

同社は、今後も成長が見込まれるアジア路線の充実に加え、日本⇔アジアのみならず、需要の旺盛なアジア⇔北米間の接続需要もターゲットにした路線展開計画を進める。

(ANAプレスリリース)7/24

http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-072.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0709/13-072.html)

JNTO、1-6月、訪日外国人数、前年同期比22.8%増

日本政府観光局(JNTO)が24日発表した今年1~6月の訪日外国人数(推計値) 訪日外国人数全体では、22.8%増の495万5000人で、上半期ペースでは2008年上半期(433万7000人)を上回り、5年ぶりに過去最高を更新した。円安効果に加え、格安航空会社(LCC)による航空座席の供給量拡大などが数字を押し上げた要因とみられる。

1~6月の訪日客数の国・地域別では、東南アジアを中心に10カ国・地域で過去最高を記録。中でも、台湾が同49.4%増の102万9700人で大台を突破したほか、タイやベトナム、インドネシアで同5割を超える伸びをみせた。中国は日中関係悪化の影響が続き、前年同期比27.0%減の53万6200人とどまり、主要国で唯一のマイナスとなった。同じく関係が冷え込んでいる韓国は、訪日観光プロモーション強化などが奏功し、38.4%増の132万200人と

対照的な結果となった。

(産経ニュース)7/24

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130724/biz13072415200012-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130724/biz13072415200012-n1.htm>)

(JNTOプレスリリース)7/24

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/pdf130724_monthly.pdf (->

http://www.jnto.go.jp/jpn/news/data_info_listing/pdf/pdf130724_monthly.pdf)

FDA、就航4年、鈴木社長、課題は乗員訓練体系の確立・静岡路線搭乗率アップ

フジドリームエアラインズは23日、就航4周年を迎えた。2009年の就航日から今月22日までの搭乗客総数は186万8320人。このうち富士山静岡空港発着便は57万2333人の利用があった。現在は静岡、松本、名古屋の3空港を拠点に、7機態勢で地方と地方を結ぶ。

静岡新聞は、就航4年目を迎えたフ鈴木与平社長に、事業の現況と将来構想などインタビューを行った。

＝以下 静岡新聞 抜粋＝

－就航4年の経営評価を。

「3年でこれくらいと描いていた段階に4年で到達したというのが実情。東日本大震災の影響は大きかった。旅客数は大きく落ち込んだ。半面、救援物資の運搬、復興支援などで青森、花巻に飛ぶ機会も得られた。当初計画とは違う部分もあるが、大きく見れば順調に進んでいる」

－現在の重点課題は。

「乗員の訓練体系を確立すること。創立時にエアライン各社からはせめて来てくれたベテランの技能を若いプロパーが継承していく。これからは静岡、名古屋など中部地方に根を張った自前の乗員の養成を一段と強化する。整備士も同様で、若手の育成に力を入れる」

－富士山の世界遺産登録による行楽ニーズをどうつかむか。

「静岡着便の搭乗率アップは当社の懸案。その点、世界遺産登録はいい契機になり得る。第1弾として静岡-福岡便の一部に安価な運賃設定をした。今後も北海道、九州の人々に静岡にお越しいただくようなキャンペーンを打っていく。静岡路線は全体的に需要が高まっている。(来春導入の)8号機は、できれば静岡を基点に運用したい」

－新規路線開拓への考えは。

「今夏は釧路、稚内へのチャーター便を運航している。先日は丘珠への調査飛行をした。丘珠は札幌の経済界からの要請を受けて飛んだが、まだ、ハード面など課題は多い。国内各地へのチャーター便運航は、引き続き積極的にチャレンジしていく」

－静岡空港への要望は。

「地方空港活性化の第1の鍵はアクセス。他県や海外から来た人には、空港から目的地への交通の便が十分でない。シャトルバスをどのようにつなぐかを早期に検討していただきたい。大井川のはばたき橋が開通すれば、藤枝と空港は25分程度でつながる。1時間に4本程度のシャトルバスが走れば、ずいぶん利便はよくなる」

(静岡新聞)7/24

<http://www.at-s.com/news/detail/738180051.html> (-> <http://www.at-s.com/news/detail/738180051.html>)

<http://www.at-s.com/news/detail/738180053.html> (-> <http://www.at-s.com/news/detail/738180053.html>)

ボーイング787関連：全日空、国内線運航787、ELT取り外し開始

全日空は24日、航空機用救命無線機(ELT)を、国内線で運航する787から取り外す作業を始めた。25日までに完了し、これまでも搭載していた手動型ELTだけで当面、運航する。

航空法は事故時に救難信号を自動発信するELT搭載を義務付けているが、国交省は客室に常備した携帯タイプの手動型ELTだけでも安全性が確保できるとし、ELTの取り外しを認めていた。

国際線では、取り外しを認めていない国があるため、点検で安全性を確認しながら使用する。

日航は国際線だけで787を運航しており、今後の各国の対応を踏まえ、路線ごとに取り外しを検討するという。

全日空や日航は自主的にELT取り外しや点検(JALは点検完了)を行っているが、正式な対応はADやTCD待ちの状態となっている。

(産経ニュース)7/24

<http://sankei.jp.msn.com/affairs/news/130724/dst13072420570010-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/affairs/news/130724/dst13072420570010-n1.htm>)

(日刊航空)

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0725-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0725-03.pdf>)

HIS、タイ設立チャーター会社、就航日を再延期

HISのチャーター航空会社「アジア・アトランティック・エアラインズ」は、就航日の再延期を決定した。就航延期の理由はタイでの運航者証明書(Air Operator Certificate)の取得に予定よりも時間を要しているためという。ただ、証明書の取得は最終段階で、これ以上の延期の可能性は少ないと説明。一方で、認可取得や諸手続が完了次第、現時点の就航開始計画を前倒しする可能性もあるとした。

当初の計画では7月19日に成田—バンコク間、7月27日に関空—バンコク間でプログラムチャーターを開始する計画であったが、7月10日の時点で成田の就航日を8月4日に延期。関空については当初計画通りの日程をめざしていたが、改めて成田、関空ともに延期した。

新たに設定した就航日は成田が8月20日、関空が9月1日。予約旅客に対しては他空港を含め代替え便が手配される。

(トラベルビジョン)7/24

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58385> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58385>)

(日刊航空)7/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

成田空港、第2ターミナル、本館—サテライト結ぶシャトルシステム廃止へ

成田国際空港会社(NAA)は、第2旅客ターミナルビル本館とサテライトを結ぶシャトルシステムを廃止することを決めた。現在のシャトルシステムの外側に、旅客が歩いて本館とサテライトを往来できる連絡通路を新設する。また、同通路の供用開始後、現在2系統あるシャトルシステムを年内にも撤去する。日刊航空が報じた。

NAAでは、発着枠増加に伴う将来の旅客増を見据え、シャトルの待ち時間にとられない移動手段を確保するため、新たな連絡通路整備を決めていた。シャトルの撤去後には、跡地を活用した施設展開も検討していく。

(日刊航空)7/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

韓国、国際線利用者数、年間5,000万人突破する見通し

(yonhapnewsによると)

韓国国土交通部は24日、今年の年間国際線利用客数が初めて5000万人を突破するとの見通しを明らかにした。同部は今年上半期の国際線利用客が前年同期より6.7%増加し2440万人と過去最高を記録したため、このまゝい

けば年間5000万人を突破すると見通した。

昨年国際線利用客は4770万人だった。

国際線利用客は格安航空会社(LCC)の就航路線拡大や、中国、東南アジアの観光客増加などが追い風となって、日本を除く全地域で増加した。特に、中国や東南アジア路線の利用客は昨年上半期よりそれぞれ13%、10%増加し上昇傾向をリードしている。

(yonhapnews)7/24

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2013/07/24/2013072401546.html (->

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2013/07/24/2013072401546.html)

ボーイング社、4-6月期、純利益、前年同期比13%増

ボーイングは24日、4～6月期の純利益が前年同期比13%増の10億8800万ドル(約1090億円)となったと発表した。売上高は9%増の218億1500万ドル。運航を再開したボーイング787の納入機数が前年同期と比べ10機増の16機となり増収増益となった。LCCなどからの旺盛な受注が業績をけん引した。

また、2013年通年の売上高の見通しも「820億～850億ドル」から「830億～860億ドル」に上方修正した。

(日経)7/24

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM24045_U3A720C1FF1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM24045_U3A720C1FF1000/)